

修士論文（要旨）

2021年7月

孫とのサポート授受が高齢者の生活満足度に与える影響
—中国山東省の都市部に居住する高齢者を対象として—

指導 杉澤 秀博 教授

老年学研究科

老年学専攻

219J6902

張 露丹

Master's Thesis(Abstract)

July 2021

The influence of support exchanges with grandchildren on life satisfaction:
among urban Chinese older adults

Ludan Zhang

219J6902

Master's Program in Gerontology

Graduate School of Gerontology

J. F. Oberlin University

Thesis Supervisor: Hidehiro Sugisawa

目次

<u>第1章 研究背景と目的</u>	1
1. <u>中国における家族関係の変容</u>	1
2. <u>社会関係と生活満足度</u>	1
3. <u>研究目的</u>	3
<u>第2章 研究方法</u>	3
1. <u>調査対象</u>	3
2. <u>調査方法</u>	4
3. <u>測定</u>	4
4. <u>分析方法</u>	6
5. <u>倫理的配慮</u>	6
<u>第3章 結果</u>	6
1. <u>回答者の特性</u>	6
2. <u>重回帰分析の結果</u>	6
<u>第4章 考察</u>	7
参考文献	
資料	

第1章 研究背景と目的

配偶者との関係、子供との関係については、中国と日本の両国で社会的ネットワークと社会的サポートの面から生活満足度への影響を分析した研究がかなり行われている。分析の結果、配偶者や子どもがいること、さらに配偶者や子どもからサポートを受けたり、また配偶者や子供にサポートを提供したりしている高齢者では生活満足度に有意に高いことが、中国と日本で共通して観察されている。

しかし、孫との関係においては次のような課題が残されている。第1には、中国、日本のいずれも生活満足度に与える影響に関する研究が少なく、分析結果も一致していない。第2には、中国においては、農村地域の高齢者を対象とした研究のみであり、その知見が都市部に居住する高齢者に一般化できるか否かは不明である。第3には、孫との関係が生活満足度に独自の影響があるか否かをみる場合、それ以外の人間関係の影響、すなわち、配偶者、子供、非親族との関係の影響を調整することが必要となるが、これまでの研究では、孫との関係以外の社会関係の影響を調整した研究はほとんどない。

本研究の目的は、孫とのサポート授受が高齢者の生活満足度に与える影響を、中国の都市部に居住する高齢者を対象として解明し、農村部で明らかにされた知見の妥当性を検証する。分析に際しては、孫以外の人間関係の影響、すなわち、配偶者、子供、非親族との関係の影響を調整する。

第2章 研究方法

1. 調査対象

中国山東省都市部に居住する60歳以上の男女200人であった。

2. 調査方法

調査は、構造化された質問紙を活用した訪問面接法で行った。

3. 測定

1) 独立変数（社会関係）：社会的ネットワークと社会的サポートの面から測定した。社会的ネットワークについては、「別居のお子さん、別居の孫さんやご親戚、友人についておたずねします。それぞれ何回くらい一緒に出かけたり、お互いの家を訪ねたりしますか。訪ねてきてもらうことも含みます」という質問で測定した。選択肢は「1週間に2回以上」「1週間に1回くらい」「1カ月に2、3回」「1カ月に1回くらい」「1カ月に1回より少ない」「まったくない」「該当者がいない」であった。社会的サポートについては、続柄別（配

偶者、子供、孫、その他の親族、友人)に、サポートの種類(情報、手段、情緒、承認)それぞれについて、受領と提供の程度を質問した。情報的なサポートについては、受領の面では「健康・生活・福祉のことで、相談にのったり、情報を提供してくれますか」、提供の面では「あなたは、健康・生活・福祉のことで、相談にのったり、情報を提供してあげていますか」という質問で測定した。手段的なサポートについては、受領の面では「2~3日寝込んだ時、あなたの身のまわりの世話をしてくれたり、家事の援助をしてもらうことができると思いますか」、提供の面では「2~3日寝込んだ時、身のまわりの世話をしたり、家事の援助をしますか」という質問で測定した。情緒的なサポートについては、受領の面では「あなたが落ち込んだときに、励ましてくれると思いますか」、提供の面では「あなたは、落ち込んだときに励ましますか」という質問で測定した。承認的なサポートについては、受領の面では「次の人たちがあなたのよい部分を認めてくれていると思いますか」、提供の面では「あなたは、次の人たちのよい部分を認めていると思いますか」という質問で測定した。すべての質問に対する回答の選択肢は、「非常にそう思う」「まあまあそう思う」「あまりそう思わない」「全くそう思わない」「該当者いない」を5件法であった。

2) 従属変数：生活満足度については Wood らによる開発された短縮版 LSI-Z を用いて測定した。満点は13点で、合計得点が高いほど生活満足感が高いことを意味している。

3) 調整変数(健康状態、社会経済階層、世帯構成、性別、年齢)

4. 分析方法

分析方法は、階層的投入法を活用した重回帰分析を用いて行った。従属変数に生活満足度を投入し、重回帰分析を行った。従属変数に生活満足度を投入し、以下のステップで独立変数を加えていった。第1段階では孫との社会関係(社会的ネットワークと社会的支援)、第2段階では調整変数、第3段階では配偶者との社会関係、第4段階では子供との社会関係、第5段階では友人との社会関係を加えて、重回帰分析を行った。分析は IBM SPSS Statistics 26 を用いて行った。なお、本研究では、孫のいない人は分析から除外した。

5. 倫理的配慮

本研究は、桜美林大学研究倫理委員会にて承認済み(承認番号20019)である。

第3章 結果

1. 回答者の特性

回答者は198人（回収率99.0%）であった。孫のいない高齢者は12名であった。そのため、本研究で分析に用いたケース数は186人であった。

2. 重回帰分析の結果

階層的投入法を活用した重回帰分析の結果、モデル1は別居の孫とのネットワークおよび孫とのサポート授受のみを投入した結果を示した。孫へのサポート提供および孫からのサポートの受領はいずれも生活満足度に対して有意な正の影響がみられた。別居の孫とのネットワークは有意な影響はみられなかった。モデル2では性別、年齢、世帯人数、経済、障害有無、健康、就学年数を投入した。孫からのサポートの受領の回帰係数はモデル1よりも小さくなったものの、有意な影響は継続してみられた。サポートの提供は回帰係数にほとんど変化なく、継続して有意な影響がみられた。モデル3ではさらに配偶者とのサポートの授受を投入した。その結果についても、孫からのサポートの受領の回帰係数はモデル2よりも小さくなったものの、有意な影響は継続していた。孫へのサポートの提供の回帰係数はほとんど変化がなく、有意な影響が継続していた。モデル4では別居子とのネットワーク、子供とのサポートの授受を投入した。結果は、孫からのサポートの受領の回帰係数はモデル3よりも小さくなったものの、有意な影響は継続していた。孫へのサポートの提供は回帰係数がモデル3よりもかなり小さくなり、有意な影響がみられなくなった。最後のモデル5では友人とのネットワーク、友人とのサポートの授受を投入した。結果は、孫からのサポートの受領の回帰係数はモデル4よりも小さくなったものの、有意な影響は継続していた。孫へのサポートの提供についてはモデル4と比較し、回帰係数が大きくなり、有意な関連がみられるようになった。

第4章 考察

本研究では、都市部における高齢者を対象に、基本属性や健康、社会階層指標に加えて、配偶者との関係、子供との関係、友人との関係など他の続柄における社会関係の影響を調整したうえで、孫との間での社会関係の生活満足度に与える影響を評価した。分析の結果、孫との社会関係の中で、孫からのサポートの受領、孫へのサポートの提供のいずれも生活満足度の向上に有意な影響があることが明らかにされた。すなわち、サポートの受領のみでなく、サポートの提供も生活満足度を高めることに貢献することが示唆されている。

他方、社会的ネットワークの面からも孫との関係を評価し、この指標が生活満足度に与える影響を分析した。分析の結果、孫との社会的ネットワークは生活満足度に有意な影響をもっていなかった。社会的ネットワークは社会関係の構造的な孫面を評価する指標であることから、その機能を発揮する際の条件として位置づけることが可能である。そのため、社会的ネットワークの生活満足度への影響は、サポートを媒介にしている可能性もある。そこで、孫との間のサポートの受領・提供に関する変数を除き、社会的ネットワークのみを分析モデルに加え、その生活満足度への影響を分析した。その結果は示さないが、このような分析を行っても、社会的ネットワークの生活満足度への影響は有意ではなかった。社会的ネットワークについては、中国では家族との社会的ネットワークが生活満足度の関係に有意な効果があることが示されている。しかし、家族の間でも続柄型別にみると、続柄によって生活満足度や幸福感への効果が異なることが示唆されている。配偶者の有無、子どもの数については、生活満足度に有意な効果があることが示されている。他方、孫に関しては、孫の存在が高齢者の生活満足度を向上させるという結果が示されている反面、孫との接触頻度が主観的 well-being と有意な関連はみられないとの研究もあり、一定の知見が得られていない。そのため、社会的ネットワークの生活満足度への影響は有意ではないという本研究結果については、一般化には慎重であることが必要である。追試が必要であろう。

本研究では、いくつか解消すべき課題が残されている。第 1 が横断研究であることから、孫との間の関係が原因となって生活満足度の差をもたらしているのか、それとも生活満足度が低いことが原因となって孫との関係が影響されている可能性が否定できない。縦断研究を行うことで、孫との間の関係が原因となって生活満足度に差をもたらしているかを特定する作業が必要である。第 2 には、他の続柄との関係との間の交互作用の可能性である。すなわち、配偶者がいない人、あるいは友人がいない場合や友人との間でサポート関係がない人では、孫との間の関係性が生活満足度に与える影響が異なる可能性がある。第 3 には、孫の年齢と居住地によって生活満足度への影響が異なる可能性がある点である。すなわち、年齢が小さい孫と成人の孫、あるいは孫が近くに住んでいるか否かがサポートの授受や社会的ネットワークに影響している可能性があることから、このような孫の特性をも考慮した分析が必要である。

結論

本研究では、都市部における高齢者を対象に、孫との間での社会関係の生活満足度に与

える影響を評価した。分析の結果、孫との社会関係の中で、孫からのサポートの受領、孫へのサポートの提供のいずれも生活満足度の向上に有意な影響があることが明らかにされた。他方、ネットワークが生活満足度に有意な影響が観察されず、サポートと比較し、その生活満足度への影響が弱いことが示唆された。

謝辞

本研究の趣旨にご理解いただき、調査にご協力いただきました中国山東省威海市環翠区大橋社区に居住する調査対象者の皆様にお礼を申し上げます。本論文の作成にご指導、ご教授くださいました桜美林大学大学院老年学研究科の杉澤秀博先生、長田久雄先生、中谷陽明先生に心から感謝を申し上げます。

参考文献

- [1] 大和三重「中国における高齢者介護のゆくえ—蘇州市の事例から—」『関西学院大学社会学
- [2] 周杏元, 李立明, 戈戎, 曹衛華, 謝敏強, 祝国英, 林益強, 屠嫻珍, 胡兵, 楊敷敦, 詹思延, 周曰清, 曹家琪, 張金鋒, 李節「上海南市区社区老年生活質量的研究概述」『中国慢性病预防与控制』04、1996.
- [3] 韓偉斌, 孫鳳仙「上海市泥城社区养老院老年人生活滿意度調查」『上海预防医学』04:p203-204、2014.
- [4] 于航「中国傳統孝文化在新時代的傳承与創新研究」『广西師範大学』2016.
- [5] 杜守東「老年人的心理調适与健康老齡化」『人口学刊』06:21-25、1997;.
- [6] 庄子「不可小觑的“隔代教育”」『老友』7:40、2008.
- [7] 山崎美佐子, 角間陽子, 草野篤子「異世代間におけるネットワークの可能性—祖父母と孫の交流關係から—」『信州大学教育学部紀要』NO. 112.
- [8] 詹奕, 李海峰, 陳天勇, 韓布新「老年人的家庭和非家庭社会关系与生活滿意度的关系」『中国心理衛生雜誌』08、2015.
- [9] 刘芸敏, 朱炎, 嚴浩軍, 何裕嵩, 官学海, 王琦「上海市老年人生活滿意度及其影响因素的調查分析」『同濟大学学报』2004
- [10] 徐蕙蘭「老年人生活滿意度及其影响因素研究」『中国心理学衛生雜誌』1994.
- [11] 程利娜「社会支持、自我效能感对喪偶老年人主觀幸福感的影響」『公共衛生与预防医学』01:p48-50、2013.
- [12] 郭清「家庭支持对農村老年人生活滿意度影响研究」『河北大学』2017 5. 1
- [13] 原田謙, 杉澤秀博, 浅川達人, 斎藤民「大都市における後期高齢者の社会的ネットワークと精神的健康」『社会学評論』55 卷 4 号、(2004-2005).
- [14] 色川 卓男「妻と夫で生活満足度か乖離する要因は何か—乖離要因の同一性と差異」『季刊家計經濟研究』2004 AUTUMN No. 64
- [15] 宋璐, 李樹茁, 張文娟「代際支持对農村老年人健康自評的影響研究」『中国老年学雜誌』11 期、2006 年.
- [16] 李蓬勃「代際支持对城市老年人生活滿意度的影响研究」『河北大学』2020
- [17] 林曉淵 岡田進一 白澤政和「大都市独高齢者の子どもとのサポート授受パターンと生活満足度」『社会福祉学』第 48 卷 第 4 号 2008
- [18] Lou, VWQ. “Life Satisfaction of Older Adults in Hong Kong: The Role of Social Support from Grandchildren,” Soc Indic Res, 95:377-391, 2010.
- [19] 肖金光「家庭代際支持对農村老年人多維健康的影響的研究」『華中師範大学』2020. 5.
- [20] 袁夢「家庭代際支持对農村老年人主觀幸福感的影響研究」『首都經貿大学』2018 年.
- [21] 邢婧「隔代照顧对老年人生活滿意度的影响」『西北農林科技大学』2019.
- [22] Xu, L. Chi, I. “Life satisfaction among rural Chinese grandparents: the roles of

intergenerational family relationship and support exchange with grandchildren”
International Journal of Social Welfare, VOL20, 2011.

- [23] 中村辰哉, 浜翔太郎, 後藤正幸 「孫との関係に着目した高齢者の主観的幸福感に関する研究」『武蔵工業大学 環境情報学部 情報メディアセンタージャーナル』第 8 号、2007.
- [24] 橋本翼 「高齢者の心理的, 精神的健康状態における孫の及ぼす影響 -孫-祖父母関係評価尺度を用いた検討」『山形保健医療研究』第 15 号, 2012
- [25] 前原武子, 竹村明子, 浅井玲子 「高齢者におけるソーシャルサポートの授受と主観的幸福感—前期高齢者と後期高齢者の比較研究」『琉球大学教育学部紀要』(68):297-307、2006.
- [26] 楊光, 刘紅楊, 王凡, 潘慶忠, 王素珍 「山東省農村居民生活滿意度影响因素的路径分析」『中国衛生統計』6、2017.
- [27] 錢雪飛 「影响城市老年人生活滿意度的社区因素探討——基于江蘇南通市区 558 例老年人問卷調查」『南京人口管理干部学院学報』7vol. 25 no. 3、2009.
- [28] 佐藤サツ子 「在宅高齢者の主観的幸福感とソーシャルサポートの関連性」『日本赤十字秋田短期大学紀要』第 5 号、2000.
- [29] 富樫ひとみ 「高齢者の社会関係に関する文献的考察—社会関係の構造的性質の検討—」『立命館産業社会論集』第 42 卷第 4 号、2007.
- [30] 岸玲子, 堀川尚子 「高齢者の早期死亡ならびに身体機能に及ぼす社会的サポートネットワークの役割. 内外の研究動向と今後の課題」『日本公衛誌』第 51 卷第 2 号.
- [31] 小西史子, 孫琳琳, 木村靖夫 「高齢者の身体状況, 体力, 生活習慣, 食生活状況および主観的健康感と生活満足度の関連」『日本健康教育学会誌』17 卷 1 号:14-23、2009.
- [32] 出村慎一, 野田政弘, 南雅樹, 長澤吉則, 多田信彦, 松沢甚三郎 「在宅高齢者における生活満足度に関する要因」『日本公衆衛生』48 卷 5 号、2001.
- [33] 濱島ちさと 「高齢者のクオリティオブライフ」『日本衛生学雑誌』49 卷 2 号:533-542、1994.
- [34] 毛富強, 李振涛, 候潔, 宋振強 「中国老年人生活滿意度影响因素分析」『中国心理衛生雜誌』Vol16.No. 4、2000.
- [35] 孫奎立, 刘庚常, 刘一志 「老年人生活滿意度影响因素研究」『西北人口』vol. 31 no. 5:116-119、2010.
- [36] 朱德發 「退休老年人生活滿意度的研究」『老年学雜誌』1986.
- [37] 宋慧峰 「多代同堂是否更幸福?家庭結構对老年人主観幸福感的影響研究」『科学决策』03:82-94、2016.
- [38] 宮原洋八, 西三津代, 萩裕美子 「地域在住高齢者の自立と運動機能, 日常生活活動, 社会的属性との関連」『理学療法科学』25(2):217-222、2010.
- [39] 連至煒, 李晋磊, 金平閱, 王紫娟, 朱之愷, 刘遠立 「社交网络对城市社区老人生活滿意度影响」『中国公共衛生』2021, 37(01)

[40] 中原純「前期高齢者の祖父母役割と主観的 well-being の関係」『心理学研究 2011 年』
第 82 巻第 2 号 pp. 158-166